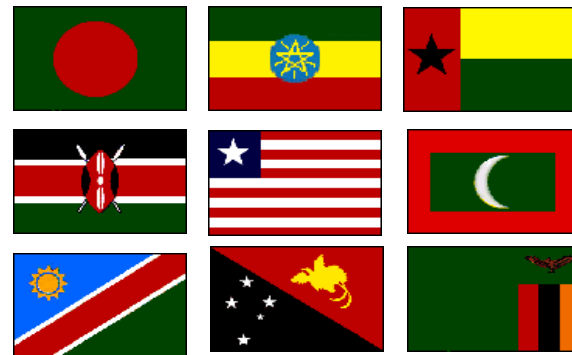


課題別研修「小学校理科教育の質的向上 ～「教えと学び」の現場教育～」

対象国： バングラデシュ、エチオピア、ギニアビサウ、
ケニア、リベリア、モルディブ、
ナミビア、パプアニューギニア、ザンビア

受入人数： 11名

受入期間： 2018年10月15日～2018年12月13日



開発途上国の小学校では、先生が前に立って教科書を読み上げ、生徒はそれを聞き、暗記するだけという先生中心の理科の授業が多くみられます。

本研修は、無料もしくは安価で入手可能な材料を用いた簡易実験を開発し、それを活用した児童中心の問題解決型の授業を行うための教授法の習得を目的として、実施しました。

最初は、問題解決型の授業が可能なのか不安に感じていた研修員ですが、日本の教育現場の視察、単元を見通した指導案の作成、身近な材料を使用した実験の開発、小学校や高校での理科授業の実践等をとおして、その教授法を学び、自国で必ず本研修の成果を広めることを約束してくれました。



帯広市児童会館で、物の溶け方についての実習を行いました。



北海道教育大学附属釧路小学校で「磁石の性質」についての授業を行いました。



砂、泥、小石などを発泡スチロールに貼り付けた、自作の地層モデルを使用して模擬授業を実施しました。



ペットボトルと風船で作成した肺と横隔膜のモデルを使用し、帯広柏葉高校で呼吸についての授業を行いました。